



「令和5年度 第31回卒業授与式を終えて」

校長 中野 瑞枝

3月12日、前日までの晴天が一転し、卒業生の巣立ちを惜しむ名残雨の降る中、第31回卒業証書授与式が行われました。4年ぶりに入場制限をせずに御来賓と保護者の皆様、小田中学校の全校生徒に見守られて卒業式を行うことができました。ありがとうございました。

卒業生の緑学年生徒は、小学校5年生の3月に臨時休校、宿泊行事の中止、中学入学後もマスク生活や分散登校など密を回避する学校生活を送り、友だちとのコミュニケーションは大丈夫か、部活動はできるのかと不安や心配が多い苦しい時代を過ごしてきました。思い切り笑えず、マスクの下の顔が見えない、そんな状況の教育活動で、生徒は大丈夫かと、毎日が心配でいっぱいだった当時のことを思い出します。

しかし、卒業生152名は、その苦しかった時期を越えて、卒業式では強くたくましく成長した勇姿を見せてくれました。運動会や音楽祭などの行事はもちろんですが、特に卒業生の平和学習発表会は、とても素晴らしいものでした。仲間と協力し合って「未知の課題」を探求し、自分たちの考えをまとめて発表した内容は、3年間で培ってきたESD教育の集大成であると感じました。

また、「コダフルハート」をスローガンにして、誰もが安心して学校生活を過ごせるように生徒会を中心に様々なことに取り組みました。今年、生徒総会で話し合ったジャージ着用については、全校生徒全員で考え検討し、みんなで確認して決めたルールです。沢山の足跡を残してくれた卒業生の気持ちを後輩は、しっかりと引き継いでくれると思います。

桜の蕾は、冬の寒さに耐えながら成長し、この時期になると急に蕾が膨らみ始めて花を咲かせます。私には、厳しいことや苦しいことがあっても力を蓄えて、毎年、花を咲かせる桜の蕾と生徒の姿が、重なって見えます。中学校生活3年間の中で楽しいこと、苦しいこと、様々なことを経験し、心身ともに強くたくましく成長した卒業生が、これからも粘り強く頑張り、希望をもって自分の蕾を育てて、自分の花を、大きく強く何回でも咲かせてほしいと心から願っています。

PTA会長をはじめ本部役員の皆さま、保護者の皆さまのご協力とご理解のもと、5年度を終えることができます。また、学校運営協議会、地域の皆様、本校の教育活動を温かく支えていただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業生別れのことば

青く澄んだ空から、柔らかい光が差し込み、桜のつぼみが膨らむ今日の良き日に、私たち152名は、小田中学校を旅立ちます。ブカブカの制服を身につけ、小田中学校の門をくぐったあの日から、早くも3年の月日が経ちました。そして、卒業証書を手にした今、その3年間の思い出が、色鮮やかに蘇ります。

一年生の秋の鎌倉校外学習。学年の目標であった「誰一人取り残さない」を目標に、外国人、高齢者、障害をもつ方といった様々な立場の人の視点に立ち、観光地鎌倉の現状と課題について事前学習をしました。当日は、地元の人や観光客にインタビューしたり、自分の目で実際に見たり歩いたりしながら、新たな課題を見つけ、学びを深めることができました。沢山の学びもありましたが、一番の思い出は、皆で水浴びをした由比ガ浜でのひと時でした。沢山歩いて疲れた足を冷たい海に浸して、とても気持ち良かったことを覚えています。

二年生となり、部活動や行事において、下級生の手本となる立場になりました。そして、先輩になったという高揚感と共に、今まで学んだことを受け継いでいくという責任感を感じるようになりました。

秋に行った長野県戸狩の自然教室。私たちが住む横浜では、絶対に感じるできない大自然。長い時間を共に過ごす中で見つけた、仲間の意外な一面。宿のお父さんお母さんの優しい笑顔と美味しいごはん。びしょ濡れになったカヤック体験。新型コロナウイルスによって、日常の様々なことが制限された日々が続いていましたが、この自然教室を通して改めて人と人との交流が楽しく、温かなものだということを実感しました。

三年生、いよいよ最高学年、ずっと続いていくように感じられた中学校生活も、あと一年なのだ、少しさびしさを覚えられるようになりました。 私たちは、「戦争はなぜ起こるのか」というテーマを軸に、平和の実現に向けての探求をしてきました。そして、被爆地の一つである長崎への修学旅行。原爆資料館での目を覆いたくなるような当時の惨状。爆風でポロポロになったビルや痛々しい火傷を負った人々の写真や資料を見て、戦争の恐ろしさを再確認しました。更に被爆された方に実際にお会いし、講和を通じて被害にあわれた方々の苦しみを肌で感じました。この学習を通して私たちが、今、こうして平和に暮らせていられるのは、当たり前のことではないことに気づきました。そして、平和を実現するためには、地球上で起きている様々な問題に対して、無関心でいるのをやめて諦めずに粘り強く向き合っていくことが大切だという結論を得ました。未来の平和を作っていくのは、私たちなのです。

在校生の皆さん、部活動や行事で、私たちに信頼して、ついてきてくれてありがとう。私は、生徒会活動を通じて、より良い学校生活をつくっていくために、沢山の人と関わりをもちました。特に印象に残ったのは、学級討議やアンケートで全校生徒の意見を集め、生徒総会で議論を深めたことで、ジャージ登校継続を実現できたことです。皆さんと意見を交わし、様々な考え方があることを知り、私はものの見方が広がりました。皆さんもこれから、小田中学校の新たな課題を見つけ、ルールや TPO を守る意義について考えながら答えを模索していきましょう。そして、生徒一人ひとりが伸び伸びと自分らしく通える学校を作ってください。

緑学年のみんな。皆との思い出は語りつくせません。作戦を立て挑んだ運動会の全員リレー、各クラスでドラマがあったであろう音楽祭の合唱。修学旅行の夜、歌って踊ったマツケンサンバ。毎日くだらないことで笑いあった何気ない日常。これらが今日で最後だと思うと、とても寂しくてたまりません。それだけ私の中でみんなの存在が、かけがえのないものであったということに今、気づきました。皆と出会えて本当に良かった。本当にありがとう。歩む道は違いうけれど、みんなのことは、ずっとずっと忘れません。また、どこかで会おう。その日が来るまで、お互い元気で頑張ろう！

今日まで私たちを支え、時には厳しく時には、優しく指導して下さった先生方、私たちをいつも一番に考えて下さった先生の深い愛情を私たちは、いつも強く感じていました。「君たちはいい子だね」といつも褒めてくださいましたが、それは、先生方が「いい人」だったからだと思います。先生方はどんなことも広い心で受け入れる「人」としての手本を示し続けてくださいました。本当にありがとうございました。いつまでもお元気でいてください。そして、どんな時でも私たちの一番の見方でいてくれた家族。思春期の私たちは、なかなか素直になれず、時には冷たい態度をとったり、わがままを通したり沢山の迷惑をかけてしまったこともありました。ここまで大事に育ててくれてありがとう。これからも私たちの成長を見守ってください。私たちが、これから歩む未来には、どんなことが待ち受けているのか不安もありますが、それ以上に希望で胸が高鳴ります。私たちは、この小田の丘で新しい仲間と芽を出し、枝を伸ばし、葉を茂らせ、大きな樹へと成長を遂げました。私たちは、これまで多くの人たちに守られて育まれてきました。これからは、この大きな幹で、枝で、葉で、誰かを支える立場となっていきます。私たちは、このことを忘れず、前を向いて一歩ずつ邁進していきます。

旅たちのときがきました。さあ友よ、いざ行こう。

令和6年3月12日卒業生代表 生徒会長

【令和6年度 に向けて】

次年度は、特に以下の点について変更、工夫改善していきます

- 1, モジュールの時間の運用について
- 2, 授業の評価のお知らせについて
- 3, 指導と評価の一体化・妥当性について

1, モジュールの時間の運用について

- 0時間目の時間設定を廃止します。→ 別紙を参照してください。
- モジュールの時間を「小田タイム」という名称に変更します。
- 「小田タイム」では、次のように総合的な学習の時間をベースとした教科横断的な運用を行い、フレキシブルな時間として活用していきます。

(例)

*30分の小田タイムを総合的な学習の時間に補足して発表会や講演会などの時間に充てる。

*独自の教科「未来づくり科」を実施する時間とする。(併設型教育学校独自の教科)

*教科で状況を確認するための時間。単元の途中や終りに(知識技能・思考判断表現力の一部)のペーパーテストを実施して、生徒自身が、自分が理解していることとできないこと、自分の課題を知る資料となる。また、教師側の授業指導の工夫改善の資料とする。

*いくつかの教科が連携して取り組む時間とする。例えば、総合的な学習の時間の中で、地域を知ろう！

→金沢区の歴史や地形、産業、人口、街を調査する(社会科、理科)、杉田梅のゼリーをつくろう(家庭科)

ゼリーの入れ物やパッケージをデザインしよう(美術科)金沢区の将来を考えてみよう(専門機関との連携など)

2, 授業の評価(単元ごとの学習状況や成果)のお知らせについて

*全教科で学習のまとめ(単元)ごとに、見とれた観点の評価を生徒にお知らせします。ご家庭でも確認してください。

*1学期、2学期の面談時では、9教科の学習状況の3観点の評価をお知らせします。(1 学期は、6月末くらいまでの授業数が少なく単元が終わらない教科(技家、美術、音楽)は出せないこともあります)

*5教科の知識技能、思考判断表(一部)については、本年度と同様の業者の県下一斉テストを6月、11月に実施します。(知識技能、思考判断表現(一部分))

*各教科では、授業を基本として形成的評価を行います。また学習のまとめ(単元)の中間、終わりに、生徒の到達度を知るために、学習のまとめとしての単元テストを行うことがあります。教科ごとにその時期は異なるために定期テストのような一斉型の形では行いません。授業中の問答やグループ討議、などの生徒が主体の活動や取り組みを中心にアドバイスをしながら資質能力を向上させる形成的評価を行っています。

形成的評価とは、学習の過程において実施する評価です。声かけやアドバイスを行いながら生徒の理解を深め、状況を引き上げていこうとするものです。

3, 指導と評価の一体化・妥当性について

*評価は、成績をつけるためのものではなく生徒をよりよく伸ばすためのものです。

- * 全教科で統一した「学びのプラン」を作成して生徒に提示します。「学びのプラン」とは、生徒が、学びの見通しと授業を通して身につける資質能力(学力)の内容を理解して、授業に臨めるようにするための生徒の視点に立って作成する資料です。学習の单元ごとに「学びのプラン」の説明をして学習をスタートさせます。

《学びのプランによる「見通し」と「振り返り」》

(单元開始:はじめ) ● (学習の見通しと期待をもたせる)



単元の学習内容・单元を通して解決すべき課題や評価規準、評価方法の概要について理解する

(单元学習中:途中) ● (単元の学習を通して行う学習への理解)



目的、課題と内容を理解する

(单元終了時:単元のまとめ) ● (学習の振り返り・省察)



①学びの意義(興味、有用性、価値) ②学習を通して自分自身への気づき・修正 ③新たな疑問や課題の発見

- 单元開始から終了時までの過程を事前に説明することで生徒が主体となる授業の展開を図ります。

	6校時日課	小田タイム日課
打合せ	8:30~8:35	
始業	8:40	
学活	8:40~ 8:45	
1校時	8:55~ 9:45	
2校時	9:55~10:45	
3校時	10:55~11:45	
4校時	11:55~12:45	
昼食	12:50~13:05(13:10 4・5月のみ)	
昼休み	13:05~13:25(13:10 4・5月のみ)	
5校時	13:30~14:20	
6校時	14:30~15:20	14:30~15:00
学活	15:25~15:30	15:05~15:10
清掃	15:30~15:40	15:10~15:20
下校(※)	15:50	15:30

朝学活の時間は8:40と変わりありません。登校する時間も変わりません。1時間目の始まり時刻が8:55~になります。

小田タイムを午後の時間につけることで様々な形で運用することができます。放課後の時間が小田タイムの日は10分増えます。

教科単元のテストは、事前に予定表でも示し、ご家庭でも各教科の単元テストを実施する日が、わかるようにします。

「小田タイム」は、原則的に月、水の6時間目に予定しています。(14:30~15:00)行事などによって変わることがありますが、予定表で事前にお知らせいたします。